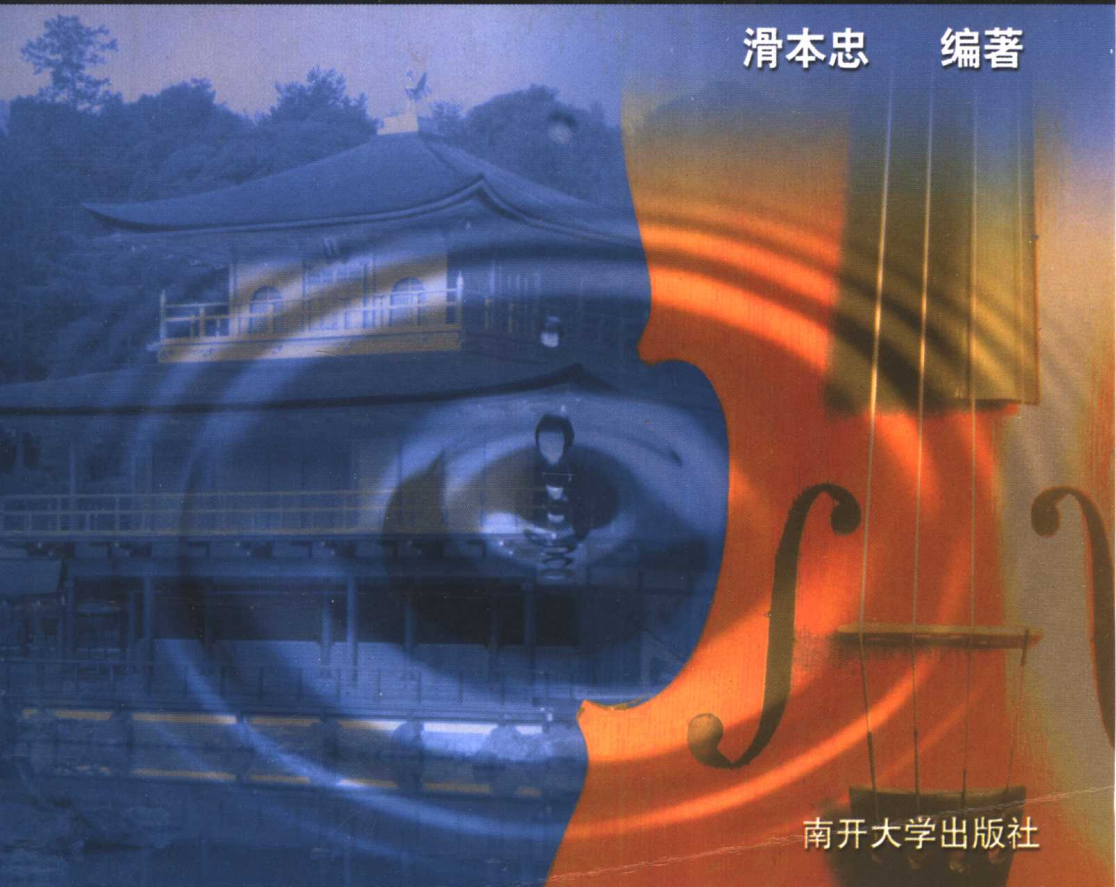




流行 日语文化解密

—— 走进日本人的生活

滑本忠 编著



南开大学出版社

流行日语文化解密

——走进日本人的生活

滑本忠 编

南开大学出版社

天津

图书在版编目(CIP)数据

流行日语文化解密:走进日本人生活/滑本忠编著
天津:南开大学出版社,2002.3
ISBN 7-310-01640-8

I. 流… II. 滑… III. 日语-对照读物-日、汉
IV. H319.4:K

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2001)第 093386 号

出版发行 南开大学出版社

地址:天津市南开区卫津路 94 号

邮编:300071 电话 (022)23508542

出版人 肖占鹏

承印 天津市蓟县宏图印务有限公司印刷

经销 全国各地新华书店

版次 2002 年 3 月第 1 版

印次 2002 年 3 月第 1 次印刷

开本 880mm × 1230mm 1/32

印张 7 625

字数 215 千字

印数 1—3000

定价 12.00 元

前 言

告别旧的千年,我们人类迎着新世纪的曙光跨进了一个新千年。回首往昔,展望未来,对于我们每个人来说都是新的机遇,新的挑战。时代在前进,世界在发展,越来越多的人认识到为了使这个世界变得更美好,世界各国之间,人民与人民之间无论在政治上还是在经济、科学技术、文化教育等方面都需要更加广泛、深入、全面地进行交流与合作。而外语这个交流的工具就显得非常重要了。学好外语已成为外事工作者及有关人员的当务之急。

与我国同处亚洲、一衣带水的邻邦日本,战后经济、科学技术等方面取得了世界瞩目的发展,已成为世界上的经济大国和科学技术先进的国家。中日两国人民友好往来与交流也更加深入、广泛、频繁。为进一步发展两国人民的友好关系,我国把日语作为第一外语或第二外语学习的人员逐年增多。笔者作为一位日语教师,根据自己的教学经验及学生们的学习效果来看,日语学习的收效并不十分令人满意。常有学生说:“花费很多时间学日语,可就是学不好,学过的东西,虽然反复复习,还是常常忘掉。”针对这个问题,笔者进行了思考与研究。日语虽然由汉字、平假名、片假名三种文字构成,有音读与训读的发音区别,语法也不如英语规律性强,但并不像想象的那么难掌握。只要学习方法得当,抓住语言表达规律就能达到好的学习效果。关键是学习的内容。有的教材的内容离我们的现实太远,与实际生活结合不起来。学习的东西被架空起来,不容易记忆,自然也不会取得好的成绩。如果把学习的内容与我们日常的生活紧密结合起来,学习中对照生活,生活中

实践学习的内容,学习生活融为一体,学习就会取得良好的效果。

本着这一想法,笔者试图以当代日本人的日常生活、社会生活为主线,展示当今日本人的生活风貌,从人的生活最基本的起床、睡觉、吃饭、学习、工作、交际等方面,把读者带进日本人的生活,从中了解当代日本人生活的真实面貌、自然现象、风俗民情、传统文化,又把日语学到手。

本书由日本人的日常生活、社会生活、衣食住、自然与旅游胜地、例年盛事活动、日本文化和日本人的一生以及日语文章中的难读单词索引、参考译文八个部分构成,其突出的特点是每篇短文都配有与文章内容相符的插图,图文并茂,可加深读者的印象,提高学习效果。本书的素材及插图主要选自日本国际交流基金日语中心编著的《写真パネルバンク》,并参考了其它国内外有关方面的图书资料。

本书在编写的过程中得到了南开大学出版社责任编辑张华老师的大力支持与指导,借本书问世之机,致以深深谢意。

编 者

2001年1月于南开大学

目 次

一、日本人の日常生活	1
1. 起床と睡眠	1
2. 一日の三食	3
3. 通学	10
4. 通勤	12
5. 学校勉強	14
6. 休み時間とクラブ活動	17
7. 課外勉強とアルバイト	19
8. 仕事 ①「稲を刈る」と「野菜を作る」	21
9. 仕事 ②「魚を取る」と「魚を売る」	24
10. 仕事 ③女性がやっている色々な仕事	26
11. 仕事 ④会社の仕事	29
12. 家事 ①洗濯と掃除	32
13. 家事 ②買い物と炊事など	35
14. 交際 ①「食後の団欒をする」と「挨拶をする」	37
15. 交際 ②「デートや飲み会をする」と「ゴルフをする」	39
16. 日本の企業	41
二、日本人の社会生活	43
1. 医療保健 ①病院と検査	43
2. 医療保健 ②保健所と老人ホーム	46
3. 銀行・ATMとクレジットカード・お金	48

4. ホテル・旅館と風呂屋	50
5. 床屋・美容院とクリーニング屋	53
6. 電車・地下鉄と新幹線	55
7. 駅と券売機・乗車券	57
8. プラットホームとバス停・タクシー乗り場	59
9. 橋・道路・高速道路と歩行者天国	61
10. テパート・スーパーマーケットとコンビニエンスストア	63
三、日本人の衣食住	66
1. 洋服と和服	66
2. 野菜と果物	68
3. 食生活と日本料理	70
4. 酒とその他の飲み物	73
5. 家屋	75
四、日本の自然と主な観光地	78
1. 日本の位置と国土	78
2. 日本の気候	81
3. 梅雨・台風と地震	83
4. 火山・温泉と海岸	85
5. 山・川と湖	88
6. 日本の主な観光地	91
五、日本の年中行事	99
1. 行事・祭りと神	99
2. 正月と初詣	103
3. 雛祭りと鯉のぼり	106

4. 七夕とお盆	108
5. 忘年会・歳暮とクリスマス	111
6. 年末と大晦日	113
7. 成人式と結婚	115
8. 結婚式と披露宴	118
9. 葬式と忌日	121
六、日本の文化と日本人の一生	123
1. 能	123
2. 歌舞伎	125
3. 茶道(茶の湯)	127
4. 華道(生け花)	128
5. 相撲	129
6. 柔道	131
7. 日本人の一生	132
七、難読単語索引	134
八、参考訳文	158

一、日本人の日常生活

1. 起床と睡眠

起床

日本人の一日は6時ごろに始まります。たいていのサラリーマンは、勤め先から電車やバスで1時間以上もかかるところに住んでいるから毎日それぐらいの時間に起きるのが普通です。小、中学生は7時ごろ起きています。家庭では、まず奥さんが起きて、夫や子供たちのために朝食の準備をします。

日本では、ベッドで寝る人が増えましたが、日本人全体を見ると、毎日畳の上で寝る人のほうがずっと多く、調査では日本人の4分の3は畳の上に布団で寝ています。その理由として「部屋が和室だから」が一番多いですが、「部屋が有効に使えるから」「畳の布団のほうが気持ちがいいから」という積極的な理由で布団に寝る人もいます。

布団の敷き方は、まず畳の上に敷き布団とシーツを敷きます。敷き布団の下にマットレスを敷く場合もあります。人は敷き布団のシーツの上に寝ます。それから掛け布団をその上にかけます。寒いときには掛け布団の下に毛布を入れます。朝にはその布団を畳んで押し入れにしまいますが、忙しい場合や面倒な場合にはそのままにしておくこともあります。それを「万年床」といいます。

日本は湿り気が多いから、布団は日に干して湿気を取ります。およそ3割りの人が1週間に一回布団を干しています。干す場所や時間がない人のためには電気布団乾燥機があります。

第二次世界大戦後、日本人の生活が洋風化して、ベッドで寝る人が

増えてきました。調査によると、男性の24.5%、女性の23.1%がベッドで寝ています。特に若い世代はおよそ半数がベッドを使っています。

ベッドで寝る理由としては男性も女性も半数以上が「布団を押し入れに入れたり出したりしなくてもいいから」を挙げます。次いで「寝室が洋間だから」になっています。



(1)起きる



(2)布団を敷く

睡眠

子供たちは勉強が終わってからお風呂に入り、床につきます。親は大体22時過ぎに入浴し、テレビのスポーツ番組などを見てから就寝というのが普通になっています。

子供が小さいときには両親と一緒にの部屋で寝るのは普通です。地方により、家族構成により、家の形態、広さや育児の考え方などによって違いますが、小学生になると、一人で寝ることが多くなります。赤ちゃんのときからほかの部屋に一人で寝かせる家族もあります。

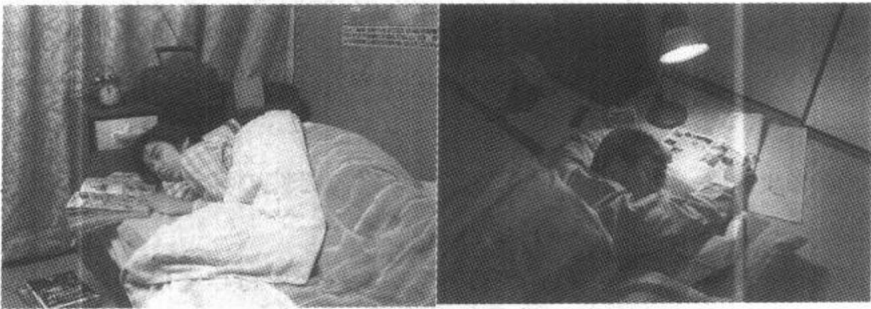
両親と一緒に寝る場合は、ふつう両側に両親の大きい布団を、真ん中に子供の小さい布団を敷きます。これを上から見ると「川」のようになります。このような寝方を「川の字に寝る」といいます。

保育園では昼食のあと、ふつう昼寝の時間があります。小学校に

はそのような時間はありません。日本では一般に大人は昼寝の習慣がありません。

調査によると、中学生は平日は11時15分ごろ寝ます。しかし、平日でも夜中の1時に10%近くの中学生在起きていて、その数は年々多くなっています。サラリーマンは平日は平均6時45分ごろ起きて、夜11時30分ごろ寝ます。睡眠時間は日本人の平均は7時間28分で、中学生は7時間38分です。サラリーマンは平均7時間19分です。日曜日だと、8時間30分で、平日よりも1時間以上長く寝ています。一番早く寝て早く起きる人は農業・漁業に従事している人で、一番遅くまで起きていて、遅くまで寝ている人は大学生と高校生です。

寝るとき、ふつう男性はパジャマ、女性はパジャマかネグリジュを着ています。若い人はTシャツで寝る人もいます。以前は浴衣の寝巻きが多かったのですが、最近では非常に少なくなりました。



(1) 寝る

(2) 眠る

2. 一日の三食

朝ご飯

日本の家庭では、一般的に7時ごろ朝食が始まります。家庭によ

って和食を取るのもあるし、洋食を取るのもあります。和風の朝ご飯にはふつう白いご飯、みそ汁、漬物、それに納豆、魚の干物、卵、海苔などの中から幾つかを準備しています。洋食には目玉焼きにハムやサラダなどのものがあります。最近一般的には朝食は、和食より準備に手間のかからない洋食のほうが多いですが、調査によると、一人一日当たり2回米のご飯を食べています。

出掛ける時間が違う家族は朝ご飯の時間も違ってきます。外で仕事をしていない専業主婦の場合は、普通は一番早く起きて、家族のみなさんの朝ご飯の支度をしたり、弁当を作ったりしています。普通はお父さんは早く出掛けるので先に一人で食べます。それが終わると夫は社会へ、子供たちは学校へ出掛けます。この時間はどこでもラッシュアワーで、特に大都市の電車や地下鉄は乗車率が200%になることも珍しくありません。

調査では朝ご飯には全体の28%の人がパン、68%がご飯中心の食事をしています。平日最も多くの人が朝ご飯を食べる時間は朝7時ごろで、日曜日は8時ごろです。朝ご飯にかける時間は平日平均で25分になっています。朝ご飯を食べる時間が一番短いのは20代の男性で、朝ご飯に16分しかかかりません。今では、全体の86%の人が朝ご飯を食べています。しかし、20代の男性の場合は64%と低くなっています。

朝ご飯を食べる人の94%が自宅で、残りの6%は自宅以外の所で取っています。外で朝ご飯を食べる場合、食べる場所としては、駅のスタンド・ファーストフードの店や喫茶店などが利用されます。

喫茶店ではモーニングサービスといって、コーヒーまたは紅茶にトースト、卵などのセットを用意しています。



(1) 朝ご飯を食べる(茶の間)



(2) 朝ご飯を食べる
(ダイニングキッチン)



(3) 朝ご飯を食べる(スタンド)

昼ご飯

日本の小学校では給食制度を取っているので小学生が教室でクラスのみんと一緒に昼ご飯を食べています。給食の主食は長い間パンだけでしたが、1991年からはご飯も出るようになり、週に1、2回肉食の給食の日があります。

給食は給食センターで作り、近くの学校に配達する場合と各学校で作る場合があります。作られた給食は各クラスの当番がクラス全員に配り、普通教室でクラス全員一緒に同じものを食べます。教師も一緒に食べることもあります。また、食堂がある学校もあります。

公立の小学校の95.2%、公立中学校の68.2%で学校給食があります。給食費は東京の場合、1ヶ月3400円から4000円程度ですが、収入の少ない家庭などは払わなくてもいいことがあります(1995年)。

調査によると、女子高校生の64.5%、男子高校生の54.3%が毎日学校へ弁当を持っています。弁当をほとんど持っていない人は男子が22.2%、女子が7.8%で、一般に男子のほうが弁当を持っています(1996年)。

大学では、ほとんど学生食堂があります。学生食堂は安いという点で学生に人気があります。大学のそばには学生のための安い食堂もあります。

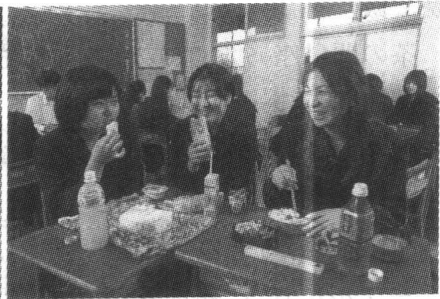
大企業や官庁では社員や職員のための食堂があるところがあります。こうした食堂では社員や職員のために栄養のバランスを考えた安い昼食を用意しています。ここでの昼食代の一部、あるいは全部を企業や官庁が負担することもあります。

居酒屋で外食するサラリーマンもいます。近くの店では昼は働くサラリーマンなどに手ごろな値段で定食を用意しています。夜になると、仕事の帰りにちょっと寄って酒を飲む店になります。

定食の値段は東京の中心なら1000円前後です。調査ではサラリーマンや働く女性が外食で払う昼食代は平均794.9円です。700円から800円ぐらいが一番多いですが、1000円以上使う人もいます。人気のあるメニューはサラリーマンが焼き魚定食、焼き肉定食、カレーライス、働く女性は幕の内弁当、うどん、サンドイッチの順になっています。



(1) 昼ご飯を食べる(小学校)



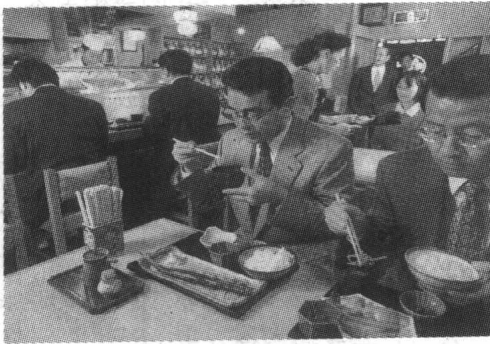
(2) 昼ご飯を食べる(高校)



(3) 昼ご飯を食べる(学生食堂)



(4) 昼ご飯を食べる(社員食堂)



(5) 昼ご飯を食べる(居酒屋)

晩ご飯

茶の間に座って、家族がみんなで晩ご飯を食べるのは一日で唯一の一家団欒の一時になります。茶の間というのは家族が集まって、食事をしたり、話をしたりするところです。

部屋の真ん中に掘りごたつが見えます。こたつというのは寒いとき、体を暖めるものです。真ん中にヒーターがあります。その上にテーブルを置き、布団をかけて、板を置きます。そこで食事をしたり、お茶を飲んだりします。冬以外はヒーターや布団を使わないでテーブルと板だけを使います。

子供が小さいときにはかなり多くの家族がほとんど毎日家族そろって晩ご飯を食べています。しかし、子供が成長すると、塾通いや稽古ごとなどで忙しくなり、一緒に食事をするのが少なくなります。

日本人の多くは平日は19時から19時30分の間に晩ご飯を食べています。晩ご飯にかかる時間は平均37分です。サラリーマンの平均帰宅時間は20時6分ですから、サラリーマンの多くは晩ご飯の時間までに家に帰れません。

高校生の調査によると、家族そろって晩ご飯を食べる高校生は全体の40%弱で、(2)の写真のように父親はいないけれども、父親以外の家族と一緒に晩ご飯を食べる高校生は27%です。また、一人で食べる高校生も23%います。

写真のテーブルには豚カツ、酢の物、みそ汁、漬物などが並んでいます。これらは日本人がよく食べるものです。ところが、学校から帰る途中、高校生たちがよくファーストフードの店に寄っておしゃべりをしながら、ハンバーガーを食べます。

中学生や高校生がハンバーガーなどを食べているのはよく見る風景です。調査によると、高校生の57.6%が月一回以上ファーストフードの店に行きます。しかし、学校によっては学校の帰りに店に寄

ることを禁止しているところがあります。

日本でもファーストフードの店が急激にふえました。中でもハンバーガーの店は人気があります。アメリカのハンバーガーの会社が日本に進出してきたのは1971年でしたが、ある店では1997年7月に店数が2137店になりました。

客も変わってきました。日本人の食生活が米中心だった1970年代にはハンバーガーは新鮮で、若い人にファッションの一つとして受け入れられました。したがって客は10代後半から20代前半がほとんどでした。現在はその年代が親となり、家族そろってハンバーガーの店を利用するようになり、客は赤ちゃんから40代までと幅広くなりました。



(1) 晩ご飯を食べる(茶の間)



(2) 晩ご飯を食べる(居間)



(3) 晩ご飯を食べる(料亭)



(4) ハンバーガーを食べる